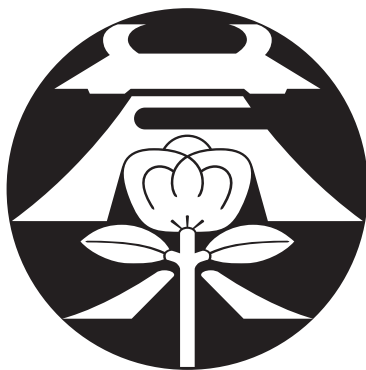




■主催： かけがわ茶エンナーレ実行委員会、掛川市

■支援： アーツカウンシルしずおか



アーツカウンシルしずおか
ARTS COUNCIL SHIZUOKA

<アーツカウンシルしずおかとは>

「アーツカウンシルしずおか」は、まちづくりや観光、国際交流、福祉、教育、産業など、社会の様々な分野と文化芸術を結び付け、社会課題への対応や地域の活性化を目指す住民主体の創造的な活動を支援します。

■助成： 令和3年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業、一般財団法人自治総合センター、静岡県市町村振興協会



■協賛：



資生堂企業資料館
SHISEIDO CORPORATE MUSEUM

資生堂アートハウス
SHISEIDO ART HOUSE



明治安田生命



掛川茶商協同組合



掛川茶振興協会



日本茶
きみくら
JAPANESE TEA KIMIKURA

KANEJO

佐々木製茶株式会社

大塚製茶株式会社、株式会社川北電気、株式会社桑原園、静岡国際オペラコンクール実行委員会、中根製茶株式会社、株式会社中村香緑園、株式会社原田園、原田商店、有限会社堀武商店、株式会社松下組、有限会社丸忠、丸堀製茶株式会社、三重大製茶株式会社、株式会社美笠園細田工場、株式会社山英、山啓製茶株式会社

■後援： 静岡県、掛川市文化協会、静岡新聞社・静岡放送、中日新聞東海本社、静岡朝日テレビ、静岡第一テレビ、K-mix

■ お問い合わせ

かけがわ茶エンナーレ実行委員会(掛川市文化・スポーツ振興課)

〒436-8650 静岡県掛川市長谷一丁目1番地の1
TEL.0537-21-1126 FAX.0537-21-1165
E-mail: chaennale@city.kakegawa.shizuoka.jp



ホームページ



YouTube
かけがわ茶エンナーレ



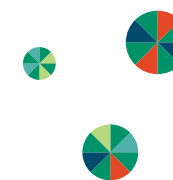
KAKEGAWA
CHAENNALE

かけがわ茶エンナーレ 2020+1

作品集



「茶・茶産地×アート」の視点に、 「+1」の想いを込めて、 アーティストと市民と地域が協創した。



世界的な新型コロナウイルス感染拡大の影響によって、1年延期となり開催された「かけがわ茶エンナーレ」。

「かけがわ茶エンナーレ2020+1」は、プラス1年を延期ではなくプラス1ととらえ、

「新しい生活様式」「新しい価値観」を「+1」の視点として、全作品をデジタル化し表現した。

かけがわ茶エンナーレ 2021年10月16日(土)～11月14日(日)

主催	かけがわ茶エンナーレ実行委員会、掛川市
委員長	久保田 崇(掛川市長)
副委員長	日比野 秀男(二の丸美術館館長)
ディレクター	鈴木 一郎太
エリアディレクター	平野 雅彦、夏池 篤
顧問	熊倉 功夫(茶の都ミュージアム館長)、柳澤 紀子(現代美術家) 鷺山 恭彦(大日本報徳社社長)、大木 敏行(資生堂企業資料館館長)
支援	アーツカウンシルしずおか
助成	文化庁、(一財)自治総合センター、(公財)静岡県市町村振興協会
事務局	掛川市文化・スポーツ振興課(〒436-8650 静岡県掛川市長谷一丁目1番地の1)



かけがわ茶エンナーレ実行委員会 委員長(掛川市長)

久保田 崇

KUBOTA Takashi

「かけがわ茶エンナーレ2020+1」は、開催予定から1年の延期を余儀なくされましたが、新しい生活様式や価値観を加えた「+1（プラスワン）」の視点を加えて、より素敵な茶エンナーレとなるよう、「超日常茶飯事」をテーマに開催しました。期間中は好天にも恵まれたこともあり、多くの市民をはじめ、県の内外の皆様が文化芸術に親しむことができたことと思います。普段見慣れた茶畑等の景色のなかに、素晴らしい作品が融合することで、日常では気づかなかったその魅力に、改めて気づく機会になったのではないのでしょうか。今回は、デジタルを最大限活用し、“いつでも、どこでも、何度でも”茶エンナーレを楽しんでいただける「てのひら茶エンナーレ」としての取組も行い、非常に多くの皆様からアクセスしていただきました。皆様にとって、かけがわ茶エンナーレが「日常を少し超える」きっかけとなったのであれば、大変うれしく思います。最後に、かけがわ茶エンナーレの開催にあたり、大変なご尽力をいただきました実行委員会の皆様をはじめ、市民、団体、企業など関係する皆様に、改めて御礼申し上げます。皆様方のお力添えにより、30日間の会期を無事に終えることができました。誠にありがとうございました。



かけがわ茶エンナーレ2020+1 ディレクター

鈴木 一郎太

SUZUKI Ichirota

かけがわ茶エンナーレ2020+1が、一年の延期を経て無事に開催できましたこと、みなさまに感謝いたします。この原稿を書いている現在2022年1月から振り返ると、前回のかけがわ茶エンナーレ2017の功績のひとつに、原泉アートプロジェクトの発展が挙げられます。原泉アートプロジェクトは、アーティストが定められた地域や場所に滞在しながら作品を制作するアーティスト・イン・レジデンスという手法に特化した、原泉地域の発展を目指したアートプロジェクトです。2017年のかけがわ茶エンナーレをきっかけに活動を起こし、4年が経過した今、着実に実績を上げ、その成果や認知度が高まっていることを感じます。2021年の開催から4年後の2025年以降にこの本を開いているあなた、掛川の街では2020+1をきっかけとして熟し始めている物事はありますか？会期中、会場のひとつだったYAMAZAKI PARADISEでは「鬼ごっこ」というパフォーマンス作品が行われており、赤鬼に扮した俳優の山崎皓司さんが、自らの畑で来訪者とお茶をし、野菜を分けてあげていました。ある日会場を訪ねた際、目と鼻の先ほどの距離に住んでいるという方にお会いしました。その方は、グーグルマップにも載っているし、畑のことは知っていたけれど、初めて山崎さんと話したそうです。山崎さんは地元である掛川に戻ってきたのですが、仲間や友だちがほしいと思っていて、その心情を浜田廣介の児童文学「泣いた赤鬼」になぞらえた結果、この作品がつくられました。山崎さんは日頃からオープンな人ですが、畑は所有者もしくは賃貸契約を結んだ者のテリトリーであり、人は勝手には入ってきません。ご近所さんも常識的な考えから中に踏み込もうとは思わなかったのでしょう。その方にしたら日常をちょっと越えたのは、芸術祭の会場だったことをきっかけとして、近所にあるYAMAZAKI PARADISEなる怪しげな名前だけど、多種多様な野菜が見事に育った畑に足を運んだということだったのかもしれませんが。そんな些細なことまで含め、様々な「超日常茶飯事」が会期中にあっただろうと想像します。日常を一步踏み出して見た景色や考えに、いつしか展開が生まれ熟すことを期待しています。



東エリア ディレクター

夏池 篤

NATSUIKE Atsushi

東エリア(日坂地区)は江戸時代より続く旅籠を中心とした会場である。街道を歩くと当時の屋号が軒先に掲げられており、住む人の歴史に対する思いが感じられる。今回参加の6名の作家には、この空間と呼応する作品を期待した。

井上明彦は、入念なりサーチのもとに旅籠の1,2階を日坂から沓掛に至る旧東海道に見立てた独自の世界を提示した。会場内では住民から提供された昭和33年製作の日坂の映像作品も上映された。大塚泰子は、歴史を刻んだ旅籠にミニマルな作品を配することで、それが空間の尺度となり、様々な要素を閉じ込めてきた部屋の存在感を際立たせた。北川純の本陣跡公園でのジッパーをモチーフにしたインスタレーション作品は30mにも及び、ランドマーク的存在となった。芝の公園を深さ1m近く掘り起こすことが問題になったが、協議の結果、地元自治会の許諾を得られた。視覚中心の作品の中にあって、サウンドアーティストである垂見幸哉は、ユニットを組む山本高久と地元の農家から譲り受けた茶の木が風で揺れる音を弦の振動に変えるインスタレーションを発表した。渡辺英司は、図鑑の中で分類されている蝶を切り抜き、蔵の天井と壁面に夥しい数を貼り付け、蝶に囲まれた空間を演出した。筆者は、籠をモチーフに旅籠に流れるゆったりとした時間と新幹線のスピードを対比させた光によるインスタレーションを展開した。今回作家によるワークショップが、コロナ禍にあって中止せざるを得なかったのは残念であった。しかしそれを十分に補ったのは、来場者に丁寧に応対し続けた地域スタッフの存在だった。ガイドとしての役割の他、作品の管理、制作材料の提供、wifi環境の確保、宿泊所のサポート等の献身的な対応は、単なるボランティア活動の枠にとどまらず、作家に伴走しこの企画を成立させる大きな要素となった。その結果、この会場は街道を散策しながらアートの世界に自然と入っていける場となっていた。

INDEX

PAGE CONTENTS

06 あちこち超日常茶飯事

- 07 藤 浩志 & むいぐるみ〜ず
- 08 深澤 孝史
- 09 鬼頭 健吾
- 10 田中 彰
- 11 マスダカルシ
- 12 山崎 皓司
- 13 ZING
- 14 中崎 透
- 15 UO (松田 優/谷 雄一郎)
- 16 狩野 哲郎
- 18 片岡 祐介×マスダカルシ

- 19 赤堀 マサシ
- 20 渡辺 英司
- 21 大塚 泰子
- 22 夏池 篤
- 23 井上 明彦
- 24 垂見 幸哉
- 25 北川 純
- 26 平野 雅彦
- 27 ゆずりは すみれ
- 28 たかはし さつき
- 29 伊達 剛+本間 義章

30 みんなの茶文化

39 文化振興プログラム



あちこち 超日常 茶飯事

掛川市の4つのエリアで、
アーティストと市民が共創し、
新たな地域の魅力を再発見するプログラム。
掛川市全域をリアルのミュージアム化しつつ、
バーチャルのミュージアムも実施した。



まちなかエリア | 竹の丸

藤 浩志 & ぬいぐるみ〜ず

FUJI Hiroshi & NUIGURUMI~ZU

「ぬいぐるみ〜ずの茶の間」

掛川市内の駅の近くに市民と使えるラボをつくり、そこでスクール形式の実践を行う予定でした。ところがコロナ禍で色々困難となり、場所の確保もできず、市民と共に活動を一緒に考えることも困難で、最終的には中高生のボランティアクラブと制作することになりました。それもなかなかうまくゆかず、中高生達にも負担と迷惑をかけてしまい、中途半端な活動となってしまったこと、申し訳なく思っております。やわらかく、しあわせなぬいぐるみ〜ずの未来をつくりたかった。竹の丸の方々、掛川市役所の方々には大変お世話になりました。





まちなかエリア | 南郷地域生涯学習センター「弥八庵」

深澤 孝史 FUKASAWA Takafumi

《報徳思想を芸術論として読む》
《横穴墓の茶室》

二宮尊徳は、貧しい生い立ちや、度重なる災害、士族の財政改革、農村復興などの経験や、神儒仏の教えから、宇宙、自然、人為の全てを一つの円からはじまるとする独自の思想体系を作った。報徳の「勤勉」は、明治から戦前にかけて近代国家の原動力として読み替えられ便利に使われてきたが、報徳思想をあえて「芸術論」として読み直すことで、便利に使えない部分の報徳思想に着目しようと試みた。また実践のひとつとして、南郷地区の開発で失われた横穴墓を河井弥八の残した離れの住居と融合させ「横穴墓の茶室」をつくった。

まちなかエリア | 大日本報徳社 仰徳記念館

鬼頭 健吾 KITO Kengo

「untitled(hula-hoop)」

untitled(hula-hoop)は文字通りフラフープのジョイントを外しまた違う色のフラフープに繋げていくことを繰り返してフラフープという円を線に置き換え、新たな有機的な形を空間に生み出したものです。線によって空間が粗密に充填していく見た目と質量が相反している作品でもあります。今回大日本報徳社で展示をしましたが、古い建物と人工的な色と形が対照的で視覚的にあまり見たことのない作品になり自身にとっては新しい発見になりました。





まちなかエリア | 大日本報徳社 報徳図書館

田中 彰 TANAKA Sho

「KAKEGAWA WOODCUT AQUARIUM」

旧図書館の空間に木版画の魚を設置することで水族館のような空間を作った。会期中は展示会場で制作、ワークショップ、イベントなどを企画し、アップデートしていった。フィールドワークとして掛川周辺の水辺の魚を釣り、木版画にした。版画になった魚は淡水のものが多かった(アマゴ、ニジマス、アブラハヤ、カワムツ、ヨシノボリ、ホトケドジョウ、ブラックバス、ブルーギル、ギンブナ)。版木になる木は掛川森林組合に協力していただき、ヒノキを使用。また和紙は天竜川近くのアたご和紙を入手するために大城さんの工房を訪ねた。



まちなかエリア | We+138

マスダカルシ MASUDAKARUSHI

「今日は何の日？」

今日は何の日かを新聞切り絵で展示しました。
「〇月〇日はこんな日なんだね。」と楽しんで頂けるように
いろいろなイキモノを制作しました。
作品は毎日Instagramで紹介しています。
実際の大きさは手のひらサイズくらいの小さめの作品です。
細かなパーツを貼り合わせて1つの作品を作っています。
原画では画像では分からない貼り合わせや、新聞の色味、
素材感などを楽しんで頂けたら嬉しいです。
今回の展示場所は、初めての試みでした。
作品の配置がとても難しかったです。
作品も展示方法で見え方が変わってくるので、
より楽しんで頂けるような空間を目指し、
これからも作り続けたいです。



まちなかエリア | YAMAZAKI PARADISE

山崎 皓司 YAMAZAKI Koji

「鬼ごっこ」

農業／狩猟／養蜂を営む俳優・山崎皓司が、児童文学「泣いた赤鬼」をモチーフに、自ら運営する農園「YAMAZAKI PARADISE」を舞台に赤鬼を演じ、訪れる人と会話をし、お茶や焼き芋を振る舞ったり、野菜を収穫させたりして、交流型演劇を展開した。掛川という土地での持続可能な生活の「豊かさ」の一例を体感してもらうこと、なぜ自分たちが豊かに暮らせているのか考えることで掛川から共に世界平和を目指す仲間を増やしたいという想いで、300人程が来場。お土産にハチミツを渡して募金を募り、集まった91,135円をベシャワール会に寄付した。



まちなかエリア | ましかど LABORATORY

ZING（吉田 朝麻）

「日常茶飯ZINE PROJECT」

今回、当初予定されていた会場を設け対面でZINE(ジン)や印刷物のワークショップをするという事がこの新型コロナウィルス感染拡大の影響で行う事が難しくなりました。他の色んなプロジェクトや計画、イベントでもこの壁に直面しているのですが、ZINGとしては既に別のプロジェクトで新型コロナウィルス以降の対面では無い方法で行う企てを行っていた事もあり、その方法を応用させ計画したのがこの「日常茶飯ZINE PROJECT」です。茶エンナーレを訪れた人やそこに暮らす人など様々な記事が会場に設置したポストに投函され、1冊のZINEになり配布される、というのがこのプロジェクトの流れです。記事を集める為のポストと紙、筆記具や案内板だけを、ただ置いておくだけだとイメージが掴めないのではという意見もあり、投函する人の参考になるサンプル「日常茶飯ZINE vol.0」を事前制作しポストに設置する事にしました。このvol.0号は茶エンナーレの関係者から集められた内容を使い編集し制作したのですが、そこには関係者だからこそ少し偏った掛川愛があったり、日常的な面白さが滲み出ていたり、マニアックな知識が書かれていたりバラエティ豊かで茶エンナーレに関わる人たちの様々な熱量を感じ取れるZINEに仕上がりました。このvol.0号を参加者に見てもらふ事も今回のプロジェクトの大事なプロセスだったんだと思います。実際に茶エンナーレが始まってから記事が集まるのか不安でしたが、結果たくさんの老若男女の方達の投函があり、内容も色んな方向の記事が集まり充実したZINEを皆さんに届ける事ができて本当に良かったです。いろいろと制限が多くなった状況ですが、やり方次第でより本質的な部分に気付き、試す事ができるのもまた事実だと今回のプロジェクトを通して思いました。プロジェクトに参加して下さい皆様ご協力ありがとうございます。

北西エリア | 鈴木ストアー（仮店舗）

中崎 透

NAKAZAKI Tohru

「Green Border Landscape」

原谷駅から徒歩圏内にある展示会場（鈴木ストアー（仮店舗））が決まり、掃除をしたり場所に手を入れ始めた頃に、スタッフの方に山側の東山茶で知られる東山地区に連れていってもらった。連なる茶畑の風景は印象的で、展示会場のくすんだ緑色の床のイメージとも重なって、緑系のポーター柄をモチーフにしたライトボックス作品を制作することにした。東山の茶畑でのスケッチを元に、そのリズムや連なりなどを参考にしつつ、会場に残った什器や備品も用いつつ、場所と呼応しながら出来上がっていったインスタレーション作品。



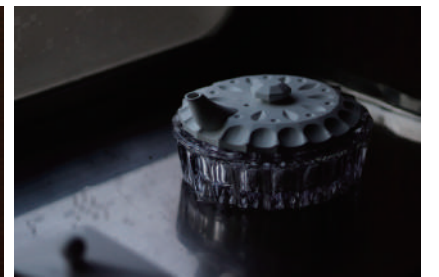
北西エリア | 原谷民家

UO（松田 優/谷 雄一郎）

MATSUDA Yu / TANI Yuichiro

「茶の周囲としての急須群」

急須という普遍的なフォーマットを用い、複数のオブジェクトを制作した。典型的な急須を3Dデータ化し、CADソフト上で複製／反転／配置／等の処理を行った後、3Dプリントし、実物に似せた塗装を施した。急須を変形することで、鑑賞者が見出す“注がれるお茶に関する意味”を変容させようとした。作品制作の仕上げ工程には静岡文化芸術大学の学生達に協力を仰いだ。大変面倒な作業であったはずであるが、彼らの貢献度は作者を凌ぎ、完成した頃にはもはや誰の所有物でもないような感覚が生じ、自作に込める意味も変容していた。



北西エリア | 加茂荘花鳥園

狩野 哲郎 KANO Tetsuro

「一本で複数の木」

枝や石などの自然物、既製品の食器や花瓶、釣り具や骨董品、材木やガラスなどの工業資材などさまざまな素材を元の意味や機能から切り離し、屋敷の複数の部屋にインスタレーションを複数の木々のように分割して配置した作品。江戸中期の庄屋屋敷の建築空間、とりわけ部屋と部屋、内部と外部の視覚的空間的連続性に着目して「複数の部屋に分割された木々」として構成した。住空間のスケールに入り込んだインスタレーションの部分は鳥や小動物にとっての屋敷の中に現れた、あたらしいけもの道の可能性を想起させる。



撮影：狩野 哲郎



撮影：狩野 哲郎

オンラインエリア

狩野 哲郎 KANO Tetsuro

「一本で複数の木」

仮想空間展示のために掛川市議会本会議場に1日のみ設営された作品。円形で高さのある空間の特性を生かし、枝や石などの自然物、既製品の食器や花瓶、釣り具や骨董品などさまざまな素材を元の意味や機能から切り離し、鳥のためのあたらしい「止まり木」としてのインスタレーションを制作した。人間のスケールを越えた作品が内包する現実の空間では見ることが難しい各所のディテールを高精細の仮想現実上では鳥のように近づくことも可能かという試行。会期中には加茂荘会場で同作品を別のインスタレーションに組み替えた展示を行った。



オンラインエリア

片岡 祐介×マスダカルシ

KATAOKA Yusuke × MASUDAKARUSHI × Takasago Chemical Engineering Co., LTD.

「高砂ミックス」

混ぜて、分離した素材を取り出す作業を連続して行えるミキサーセトラーという装置を題材にした映像作品。音楽家とコラージュ作家のコラボレーション。
協力：株式会社高砂ケミカル

全域エリア | 市内全域(代表地点：三の丸広場)

赤堀 マサシ AKAHORI Masashi

「2020+1人のベニヤ人」

かけがわ茶エンナーレ市民参加プログラムのひとつとして実施した「2020+1人のベニヤ人」は、できる限り多くの参加者を得て、数多くの「ベニヤ人」を出現させることを目指した。4つの小学校(大淵小、倉真小、日坂小、第二小)の児童130人と一般向けWS15人、合計145名の参加で、各展示エリアに配置された「ベニヤ人」たちは、訪れた人々の心をなごませた。



東エリア | 日坂宿 藤文 (蔵1F+2F)

渡辺 英司 WATANABE Eiji

「蝶図／藤文インストール2021」

「子供の絵のトレース2020」

「藤文」裏手にある蔵の壁や天井、床に蝶図鑑から切り取った無数の蝶の図版を散りばめる。また、幼稚園児が描いた無邪気な消防車の絵を立体物に再現する。



東エリア | 日坂宿 藤文 2F

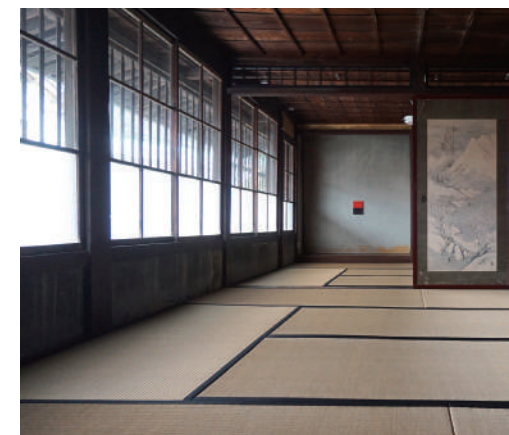
大塚 泰子 OTSUKA Yasuko

「空間色／藤文2021」

「水の彫刻2021」

「藤文」を下見に訪れた際に、年を経てあらわれたグレーの壁の美しさに驚き、この作品が生まれました。

実際に作品を置いてみて、その壁の宇宙的な深さと広がり、さらに感銘を受けました。





東エリア | 日坂宿 萬屋

井上 明彦 INOUE Akihiko

「Twisting Tōkaidō」

旧東海道沿いの日坂と沓掛の立地をテーマに、旅籠・萬屋の1階と2階全部を使い、「Twisting Tōkaidō(東海道をねじ曲げる)」を行った。旧東海道を萬屋内に引き込み、その道に沿って1階に新しい「ニサカ村」を仮設する。村の名は「二つの坂(階段)」に由来する。道は1階の床を湾曲して二つに分かれ、それぞれ急な坂(階段)を上がると、会期中のみ穴で通じた2階の二つの部屋に「新クツカケ村」が広がる。日坂の盛衰を伝える1958年の東映教育映画や、萬屋に飾られていた村松辰夫の日坂絵図もインсталレーションに取り込んだ。



東エリア | 日坂宿 藤文1F

夏池 篤 NATSUIKE Atsushi

「光の籠」

JR東海道線は、この日坂地区を大きく迂回している。それは当時、牛が驚くので鉄道の敷設に住民が反対したためであると聞いている。このおかげで日坂の旅籠は今も残っており、町民による籠レースが毎年実施されている。今回はこの地区に流れる時間をテーマとした。平均的歩行速度は時速4kmとされる。早籠の速度は文献によれば時速にして6kmほどである。一方、現在では新幹線に乗れば静岡から東京まで約1時間で行くことができ、その平均速度は180kmである。作品は、その三つの速度を光の移動で体感してもらおうというものである。





東エリア | 日坂宿 本陣跡

北川 純 KITAGAWA Jun

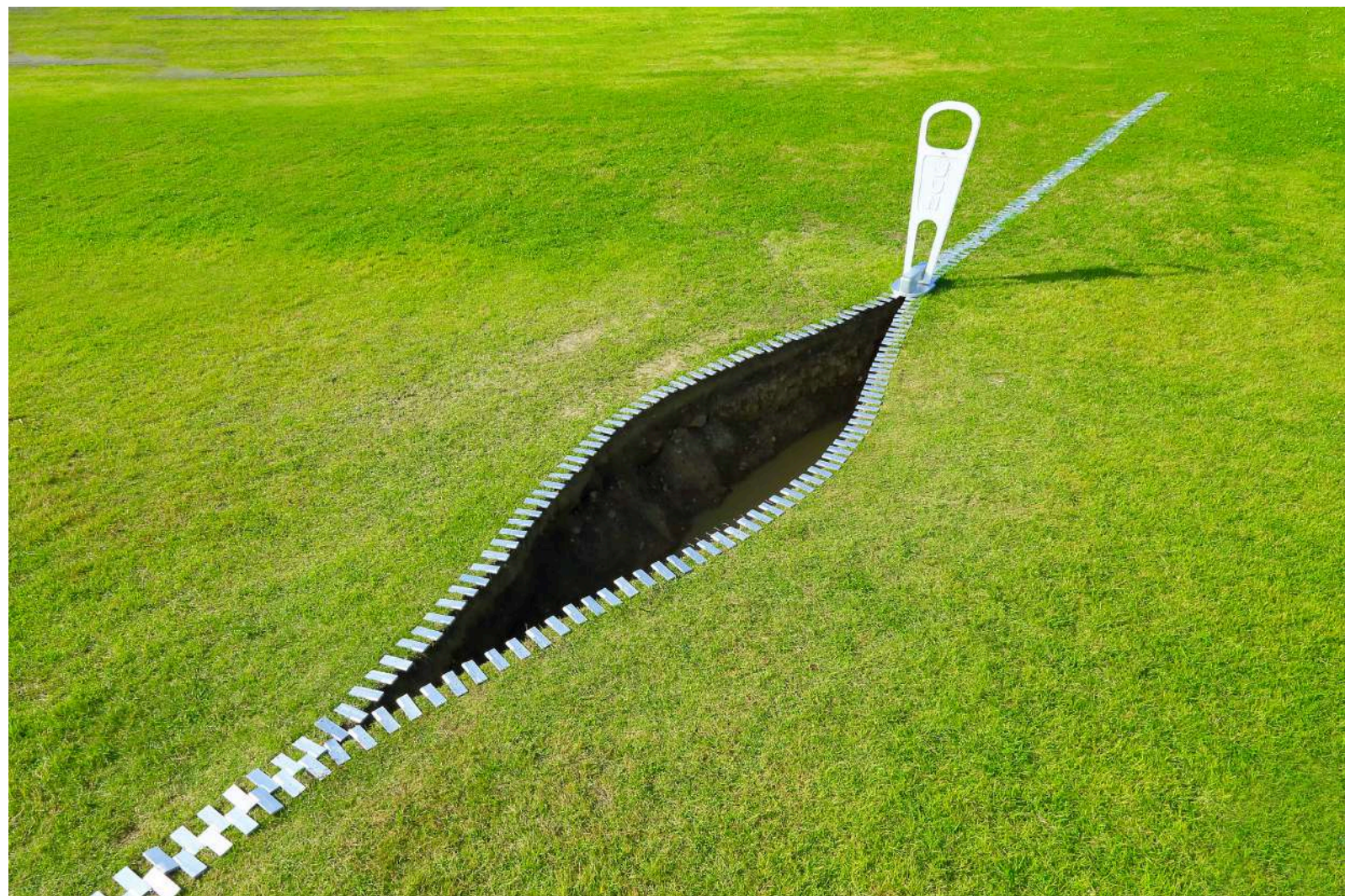
「ジッパー5」

日坂宿のかつては本陣宿がありその後学校敷地として利用され、現在は市民が憩う公園となっている土地に巨大ジッパーが出現しました。

持ち手金具を引っ張るとみるみる地表が開いていきます。

割れた地面からは何が見えるでしょうか。子供の運動靴でしょうか、それとも殿様の刀でしょうか？

あっこれ以上引っ張らないでください。地球が裂けちゃいますから。



東エリア | 日坂宿 山英本社倉庫

垂見 幸哉 TARUMI Koya

DESSERT OF DESERT

「風 NAGI」

「無覚音 白 MUKAKUON BYAKU」

「無覚音 黒 MUKAKUON KOKU」

無覚音は無意識の音を知覚することをテーマにしたインスタレーション作品である。「白」「黒」「風」の三つの作品は同じ空間の中でお互いに干渉し合い、普段は無意識のうちに処理されている音や人間の耳では知覚することのできない音が、装置により視覚現象として提示される。それらを空間の中で重ね合わせることで、意識と無意識の反転と知覚の拡張を試みる。

今回の展示の為に用意した「風」は、土地の特性から発想した作品で茶の苗を素材としている。調達から制作まで現地で行う事で、地域性が際立つ作品・空間となった。





南エリア | オンライン配信

平野 雅彦 HIRANO Masahiko

シリーズ・語る「茶エンナーレはもっとおもしろくなる！」

YouTube



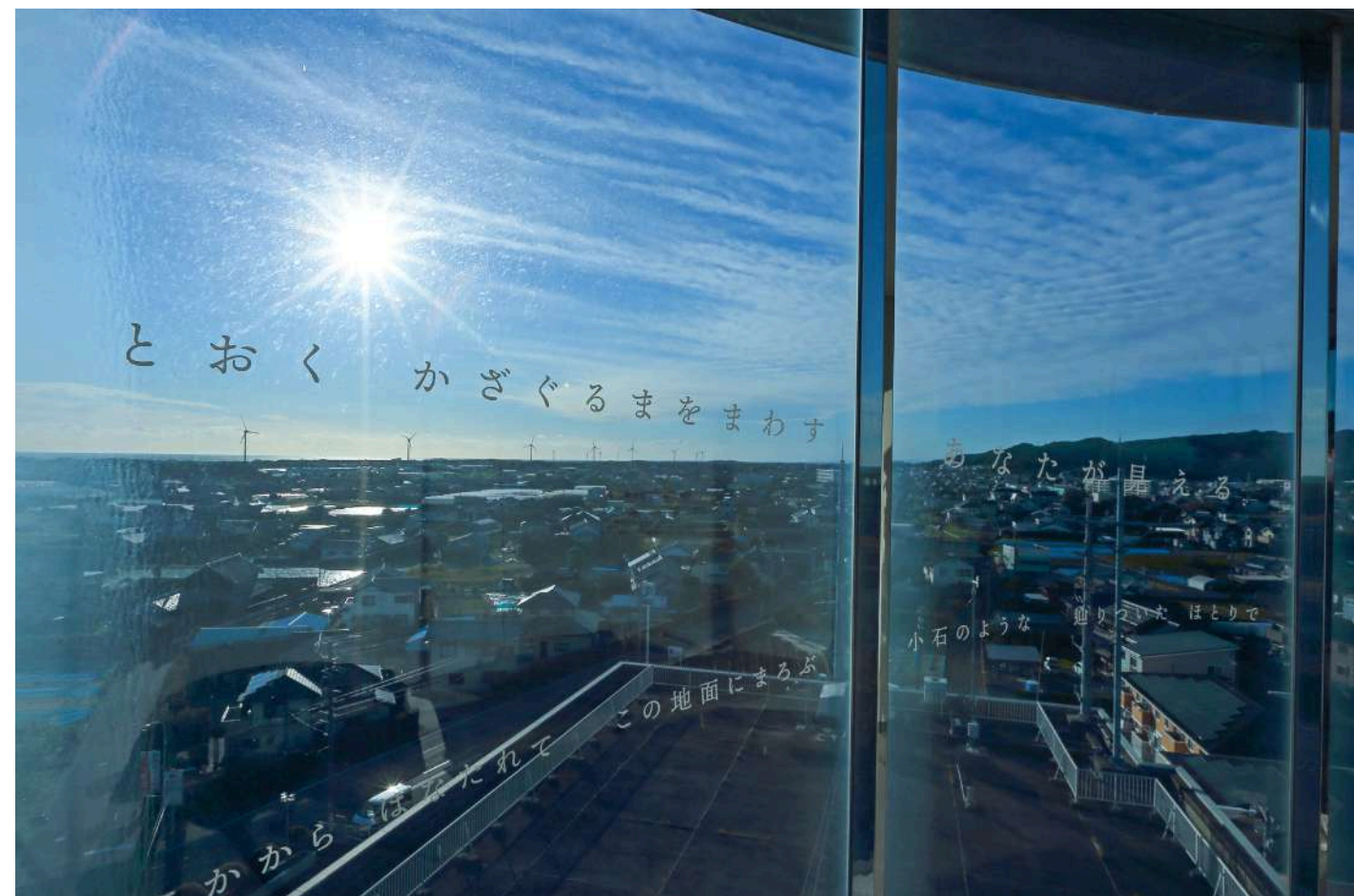
アサイヤスコ (Art Book Shop リぶらりお)



丸山勝久 (掛川市茶商協同組合 理事長)



伊藤由李奈 (掛川市吉岡彌生記念館 学芸員)



南エリア | 大東支所展望台

ゆずりは すみれ YUZURIHA Sumire

「34°39'56.07"N 138°03'17.92"E ほとりにて」

立地や周囲の景色から「ほとり」をテーマとし、会場の展望台から見える風景をくみ取りながら詩を書いた。詩作では、展望台の見えるものと、この地面にいる「わたしたち」とに思いを馳せ、言葉は、景色と鑑賞者とを繋ぐものであることを意識した。鑑賞者は展望台の窓に浮かぶ詩を読みながら、同時に、窓の外に広がる景色を見詰める。「わたし」と景色、「わたし」と時間、移り変わるものと佇むもの、その「ほとり」を、作品では表現した。展示設計は、本田郁美が手掛けた。掛川の南の端っこ、小さな展望台に詩を書けたことを嬉しく思います。



南エリア | 掛川市立大東図書館

たかはし さつき TAKAHASHI Satsuki

「アトリエTRUCK 2」

屋台が荷物を運ぶように、人の心の中にある「言葉」を体の中から外へと運び出すことをテーマに参加型の展示を行った。掛川の大地で育った杉材のキャンパスへ集めた来場者の「心に残る言葉」は、屋台の周りで言葉の森となり、最後には言葉の道へと姿を変えていった。ゆったりとした時間の中で、キャンパスへ運ばれた言葉が積みあがるさまはとても優しく、掛川に暮らす方々らしさを感じた。

屋台は今後、アトリエTRUCK2号として市内のどこかで何かを運ぶ予定。それはものなのか、言葉なのか、時間なのかはまだわからない。



南エリア | 居沼池

伊達 剛+本間 義章 DATE Tsuyoshi + HOMMA Yoshiaki

「222 生命の星座 —ため池のイメージ—」

掛川市内に222ヶ所もあるため池。その座標を星座のように配置したファサードをもつ約2畳の大きさのカメラ・オブスクラをため池のひとつである居沼池の畔に設置した。俯瞰で眺めるため池、実際のため池、スクリーンに映し出されるため池を3段階で「みる」という構成である。鑑賞者が、ファサードをみて、掛川市のため池の多さと人々の生活を支えてきた、ため池の存在に思いを馳せ、カメラ・オブスクラによる「倒立像」をみて、この場所がいかなる場所かを感じ、記憶に刻む。ため池の今後のあり方を想像する契機となることを願い制作した。





みんなの 茶文化

「茶文化創造」をテーマに、
市民それぞれの思いを形にした、
「市民プログラム」「文化振興プログラム」
「お茶振興プログラム」を実施し、
“茶産地”掛川市の誇るべき文化芸術を発信した。

くじドロワークショップと アーカイブ展示

乾久子とチームくじドロ

くじびきドロイングは、くじを引いて絵を描いて誰かと繋がって
いくお絵描きワークショップです。ちやのつく言葉で繋がった今回
も楽しい作品が残されました。アーカイブ展では過去の作品の
全てが展示されました。

① ワークショップ 10月16日(土)、17日(日) 10:00～16:00
展示 10月16日(土)～11月14日(日) 9:00～17:00
📍 掛川市立中央図書館(展示)・大日本報徳社冀北学会(ワークショップ)



①街中美術館茶エンナーレバージョン ②おかみ茶屋

掛川おかみさん会

①10月「掛川市立城北小学校」「掛川市立中小学校」の児童作品
を、11月は「掛川市立すこやかこども園」「掛川市立三笠幼稚園」
「掛川市立さかがわ幼稚園」の園児作品をまちなか商店街に展
示。②街中美術館開催にあわせて、駅前のおかみさん市の場所に
「おかみ茶屋」を開設し、来訪者に「掛川茶」をふるまったり、茶エ
ンナーレの解説やガイド、また、街中美術館のガイドを務めました。

① ①10月16日(土)～18日(月)、11月13日(土)～15日(月)
②10月16日(土)、11月13日(土)～15日(月)
📍 ①掛川駅北口中心市街地 ②We+138



①まちなかアートマップ ②まちなかアート博士になろう!

NPO法人 掛川の現代美術研究会

①「掛川駅周辺～商店街～文化施設に点在するパブリックア
ートを中心としたアート作品やデザイン、建築物などの解説」と「ま
ちなかの商店の紹介」を掲載し、マップ上でも紹介できる印刷物
の作成。まちなかのアートイベントの紹介も掲載。②このマップに
掲載された作品を中心に解説できるガイドの育成や広報活動を
目的とした「アート博士」を育成する講座を開催しました。

📍 市内各所で配布



風と笑顔と、茶のご縁

NPO法人 風の家

①茶エンナーレ期間中の平日、来場者に対しボランティアが無料で、美味しい煎茶を入れ、お菓子と共に就労継続B型事業所利用者が提供しました。②11月13日(土曜日)9:30～11:30「いっふいかが?」《抹茶・煎茶》来た人に、3枚綴りのチケット(抹茶・煎茶・生菓子)を配り、風の家で、講師による抹茶・煎茶のいただき方を教えてもらい、抹茶・煎茶をいただきました。屋外の予定だったが、風、寒さもあり、室内でコロナ対策を十分に行う。尚、受付、お茶だしは就労継続B型事業所利用者が行いました。来客者との交流もできた。③期間中の来場者に、就労継続B型事業所利用者手作りの「しおり」「プラバン」を無料でプレゼントしました。

🕒 10月16日(土)～11月14日(日)

📍 NPO法人 風の家



アトリエ&ラボ 横さんち

駄菓子屋 横さんち

12人の障がい者が働く駄菓子屋として、アート×福祉×お茶×ITをテーマにしたプログラム。分身ロボット「OriHime」を通した世界中の方々とのコミュニケーションを実現したほか、「飲むアート」と題してオリジナル紙コップを製作しました。

🕒 10月17日(日)～11月14日(日) 13:00～17:00

📍 駄菓子屋 横さんち



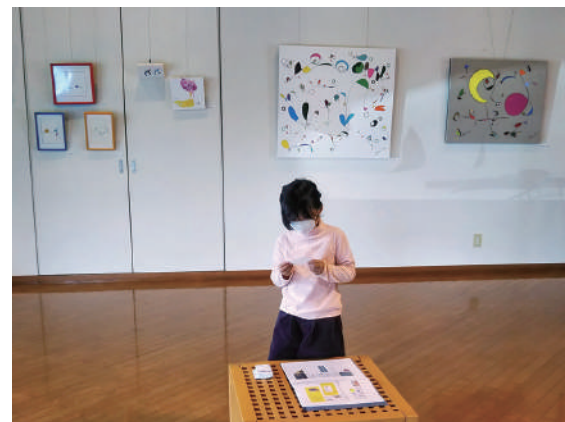
Earth Concerto

渋田薫

茶草場農法を題材にした絵画作品展示。アンティークカフェロードさんに協力いただき、粟ヶ岳周辺をリサーチしました。伝統的農法によってできる茶の味と香り、豊かな生物多様性を絵画に表現し、掛川市中央図書館とオンライン上で発表しました。

🕒 10月30日(土)～11月14日(日)
オンラインは10月16日(土)～11月14日(日)

📍 掛川市中央図書館+オンライン展示



掛川茶(深蒸し茶)の本当の良さを知ろう

静風流

来場者に掛川産普通煎茶と深蒸し煎茶の二種類を提供した飲みくらの後、感想をたずねた。そこで深蒸し茶の良さの説明、お茶の色、味わい、煎を重ねてもお茶の色の良い事などの話しをしました。

🕒 10月24日(日)

📍 まちかどLABORATORY



My「掛川茶染めマスク」を作ろう!

茶話の会

鬱陶しいコロナ禍を少しでも爽やかに過ごそう!と、白いコットンマスクを掛川産の深蒸し茶・抹茶・紅茶で染め、色や香りの違いを体験していただきました。後半のプチお茶講座では、コロナとお茶に関する事などを話しました。

🕒 10月31日(日) ①9:30～ ②13:30～

📍 JA掛川市あぐりきっちゃん



お茶と邦楽の世界(第12回 長唄鑑賞会)

富栄寿多(ふえすた)

粟ヶ岳阿波々神社の無間の鐘伝説に由来する長唄「無間の鐘」の紹介を茶祖・栄西禅師像がある山頂のかっぱしテラスでおこない、その演奏収録をスタジオにておこないました。第12回長唄鑑賞会は、無観客にて竹の丸で開催し、その模様を演奏収録しました。

演目:無間の鐘(むけんのかね)、二人 椀久

出演者:杵屋勝彦(唄、三味線)、杵屋勝九郎(三味線)、杵家弥七比古(三味線)、杵屋喜沙羅(唄)

🕒 10月16日(土)～11月14日(日)

📍 YouTubeかけがわ茶エンナーレ



徳川家康と山内一豊 ～小夜の中山物語～

劇団静岡県史

戦国時代、掛川城主山内一豊が関ヶ原の合戦に向かう徳川家康を、久延寺（小夜の中山）にて掛川茶でもてなしたエピソードを取り入れました。開会式では撮影した映像をWEBで放映。桜木ホールにてライブ公演を2回開催（満員御礼）しました。

🕒 10月16日（土）15:00開演（14:30開場）
📍 桜木ホール（西部ふくしあ隣）



茶演会 ～秋風にそよぐは茶の香と音と声～

太鼓塾アブラナ

さくら咲く学校の校庭を利用し、秋深まる山間の中5組の出演者にて演奏会を行いました。また、掛川三番茶と石神農園のバックティの試飲会や掛川ハヤシの販売など行い、自然に囲まれた雰囲気の中お客様に充実した時間を提供しました。

🕒 11月13日（土）13:00～16:00
📍 さくら咲く学校



北限の茶畑とFSC認証林を巡る スケッチ&E-MTBツアー

掛川市森林組合

掛川市北部の茶畑とFSC認証林をE-MTBで巡るツアーを実施。原泉アートデイズに立ち寄り、スケッチおよび展覧会を行いました。山林では森林施業のデモンストレーションを見学し、FSC認証林を巡りました。

🕒 11月13日（土）
📍 掛川市原泉地区



アートペアリングプロジェクト （Tea of the Men×ゆるアコ）

アートペアリングプロジェクト（Tea of the Men×ゆるアコ）

7人編成の声楽で、WACCA池袋の一階で、新たに編曲した掛川市の民謡である日坂馬子唄や茶つきり節などの演奏しました。

🕒 11月6日（土）17:30～18:00
📍 映像上映 東山茶工場



東海道日坂宿江戸末期の川坂屋見学 と掛川偕楽園の茶室でお茶会

川坂屋管理運営ボランティアの会

掛川藩主太田侯が掛川偕楽園に建てたと言われる築210余年の茶室にて、お抹茶の呈茶席を設けて有料接待。川坂屋の湯茶を接待する釜を設置したスペースを活用し、日坂深蒸し茶の無料呈茶を行いました。

🕒 10月30日（土）、31日（日）、11月6日（土）、7日（日）10:00～15:30
📍 川坂屋、掛川偕楽園茶室



栗ヶ岳ファミリーロゲイニング in東山&縁側カフェ

かけがわ栗ヶ岳山麓農泊推進協議会

栗ヶ岳山麓東山地区を主会場にして11月3日秋晴れの下で開催し、ファミリー部門24組・73名、一般部門20組・58名、合計44組・131名が参加。こどもたちに里山の秋を家族で楽しんでもらうとともに、お茶どころならではの茶畑が広がる景観とフィールド各所に点在するお茶工場やお茶屋さんなどのお茶の飲み比べを楽しんでもらい、当地自慢のお茶の魅力PRに努めました。また今回地元東山地区から30名、倉真地区から20名がスタッフとして協力頂き、地域をあげて参加者をお迎えし、おもてなししたことで参加者からは好評価を得ることが出来ました。

🕒 11月3日（水祝）9:00～15:00
📍 東山地域生涯学習センター及び栗ヶ岳・その山麓周辺



TIMEEMIT LIVE 「茶縁(CHAEN)」

Tea of the Men

東山の茶工場にて、リキッドライトペインティングを行い、その空間で、タップダンサーと多目的打楽器奏者による即興の演奏を行い、さらにフィールドレコーディングしたお茶の音(手揉みの音など)をリズムに乗せました。

🕒 11月6日(土) 18:00～19:30(予定)
📍 東山茶工場



デジタルアート ～大好き日坂・東山～

掛川市立日坂小学校

日坂・東山らしさをデジタルアートで表現しました。日坂・東山には豊かな自然、お茶畑、歴史ある建物、お祭りなど素晴らしい環境が整っています。それらを「色・形・動き」を組み合わせた「動く模様」を作り、紹介しました。(たくさんの方々に、日坂・東山らしさを伝え、関心を持っていただけたら嬉しいです。)

🕒 11月13日(土)～11月14日(日)
📍 川坂屋



投句箱 (俳句優秀作品展示)

掛川市文化協会

①作品募集:投句箱3ヵ所(掛川城、横須賀城、大東図書館)掛川茶にちなんだ俳句8月1日～9月30日②投句数220句・投句者70名③選句:優秀句3名、佳作10名④展示:掛川市大東図書館ロビー10月16日～22日

🕒 10月16日(土)～10月22日(金)
📍 掛川市立大東図書館ロビー



mokomoko2020+1 -home ground-

モコモコグランドアートプロジェクト

2009年以来顕在化されてきた大東土方エリア特有の地形「モコモコ」。特徴的な起伏を有するグランドアートに5つの「窓辺」を設置。椅子に腰かけ、窓の外に見えるのは、この土地の優しさと美しさです。

🕒 10月16日(土)～11月14日(日)
📍 大東土方エリア



- ①お茶おこわのふるまい
- ②とうもんの風景写真展
- ③お茶を使った和菓子講座
- ④抹茶をたてよう
- ⑤秋色ウォーク～まちなか歴史散策～
- ⑥動画横須賀の茶園～海に見える茶畑～作成

NPO法人とうもんの会

①茶葉の入ったおこわで、秋摘み新茶の味わいを提供②風景写真展一般より公募した写真展。とうもんの里は夕陽の絶景スポット③和菓子はお茶の色と秋の色を現した練り切りに挑戦。思い思いの深山と茶畑が作れて満足度アップ。④抹茶が自分で点てられることは、日常に楽しめることと今後も続けたいです。

🕒 10月16日(土)～11月14日(日) 9:00～16:00(火曜日休館)
📍 とうもんの里総合案内所



農家の蔵ギャラリーと 庭カフェで愉しむ掛川茶

鈴蔵保存活用研究会

農家の蔵を活用したギャラリーで民芸アート等展示、掛川茶を使用した菓子飲物を提供する庭カフェ、ぼち袋制作体験会、宝珠寺で座禅会

🕒 10月30日(土) 10:00～16:00、31日(日) 10:00～15:00

📍 鈴蔵及び寶珠寺



掛川の喫茶スタイル 創造ワークショップ

日本茶インストラクター協会掛川支部

「お茶のまち掛川」の魅力を深堀するために、掛川市内の歴史ある寺院や建造物、お洒落な日本茶カフェを会場に、テーマごとに講師をお招きして掛川ならではの喫茶風景を再発見するワークショップを開催しました。3つのワークショップは学術の提供とともに参加者との一体感を創出し、更にアレンジティーにもご満足を頂く、楽しい会となりました。その時の模様はプロの写真家により、素敵な写真作品となってSNSやブログで紹介しています。

🕒 ①10月24日(日) 14:00～16:00 ②10月30日(土) 18:30～20:30

③11月5日(金) 13:00～15:00

📍 ①貞永寺 ②報徳社 ③日本茶カフェ「茶の庭」



企画提案プログラム 文化振興プログラム

📍 大須賀中央公民館

鼎談「人をはぐくむ」

📺 YouTube かけがわ茶エンナーレ

市長・鷲山恭彦さん・水野幸雄さんによる座談会。市内で生まれ育った各々の体験談～風土や歴史・伝統文化と人間形成～文化活動や人のつながりの創造～コロナ禍に活かす報徳の教え～茶エンナーレの紹介など和やかで多岐にわたる内容。



田中陶山回顧展「ひととつち」

🕒 11月6日(土)～11月14日(日) 9:00～17:00 月曜休館

📍 大須賀中央公民館

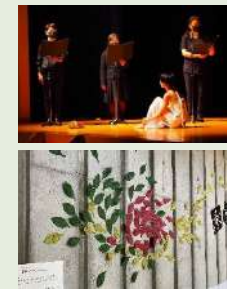
地元の小笠山の土に出会い一心に作陶の研究をされ、独自の「書陶」といわれる作風を生み出した田中陶山さんの回顧展。如雲時代の作品、土づくりの様子、作陶のアイデアや想いを綴ったノート、未完成の素焼き作品と遺された土も一緒に展示。



市民参加による舞台づくりのワークショップ ～三社囃子のなか、繰り上げられる物語～ 「未来へ」

📺 YouTube かけがわ茶エンナーレ

「畏れ」「祈り」「希望」コロナ禍で感じた思いを書いた「言の葉」を募集。「言の葉」を紡ぎ作成したシナリオの朗読と三社祭礼囃子・コンテンポラリーダンスの共演。演出から撮影まで、プロの手を借りずに市民だけで舞台作品の創作に挑戦しました。



ぬく森

🕒 10月26日(火)～11月14日(日) 9:00～17:00 月曜休館

📍 大須賀中央公民館

よこすかぬく森こども園の年長さんが、みんなで協力して新聞紙を使った立体作品を創りました。壁面パナーは、事前に園に出向き行った体験の様子。



谷正輝 syncasync(シンカシンク) 遠隔型マルチチャンネル・ビデオ・インスタレーション

🕒 10月16日(土) 17:00～

📺 YouTube かけがわ茶エンナーレ

「間合い」をテーマに、現地で制作したインスタレーション作品と共に、パフォーマンスをライブ配信しました。鑑賞者はインターネット上からライブ動画と複数の同時再生動画を、ご家庭にあるいくつかのディスプレイで再生し、鑑賞者自身がその場にマルチチャンネル・ビデオ・インスタレーションを立ち上げる作品です。パフォーマンスをSPAC俳優の関根淳子さん、撮影を映画監督の泉山朗土さんに依頼し、コラボレーションしました。

